

(9) 中国



中国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

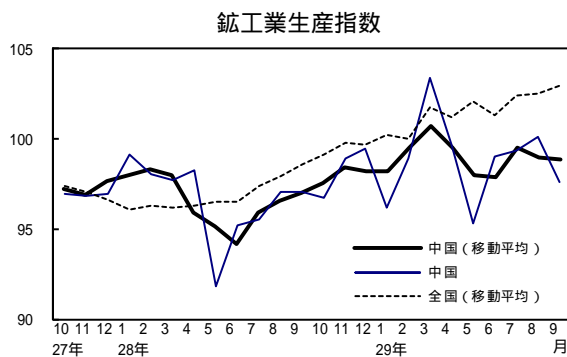
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 8 月)	今回 (平成 29 年 11 月)	
景況判断	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
鉱工業生産	このところ横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	大幅に増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7 - 9 月期には、輸送機械は、年間計画に基づき船用ディーゼル機関等が生産減としたもの、おおむね横ばいとなった。化学は、一部事業所での設備定期修理明けによりポリエチレン等の生産増から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、応需により金型等の生産増から増加した。鉄鋼は、一部事業所の設備修理の影響から鋼半製品等の生産減から減少した。電子部品・デバイス、太陽電池セル等の生産増から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	23.5	3.8	0.2	0.2	0.7	3.9
化学	16.4	4.4	2.1	3.6	4.3	0.6
はん用・生産用・業務用機械	11.2	8.5	2.7	0.8	5.6	14.9
鉄鋼	7.7	0.1	0.9	2.1	0.8	2.1
電子部品・デバイス	7.1	2.3	2.6	3.9	0.1	0.8
鉱工業	100.0	1.5	1.0	0.3	0.8	2.5

(備考) 1. 22年 = 100、季節調整値、最新月は速報値。  
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

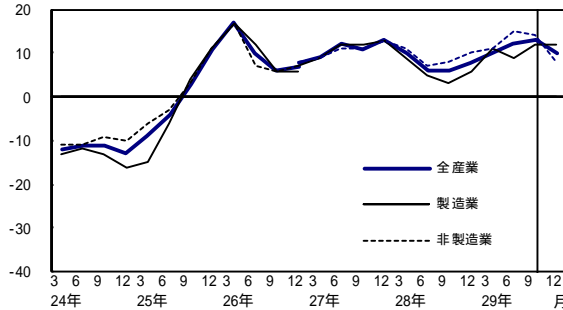
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7 - 9月期、9月は速報値。

(9) 中国

(2) 業況判断は業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

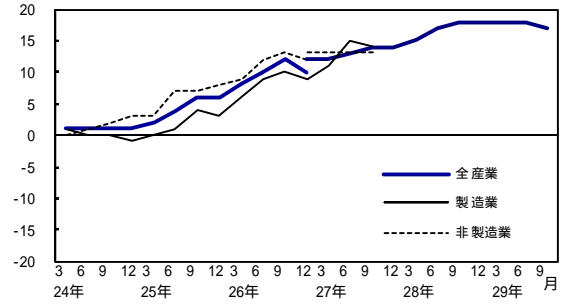
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



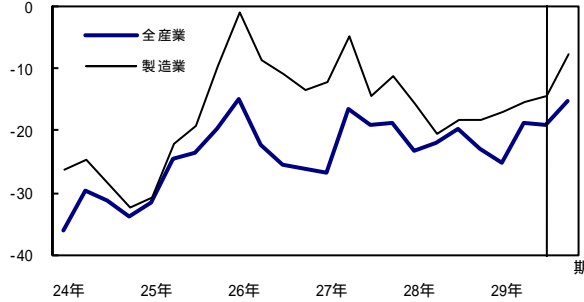
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



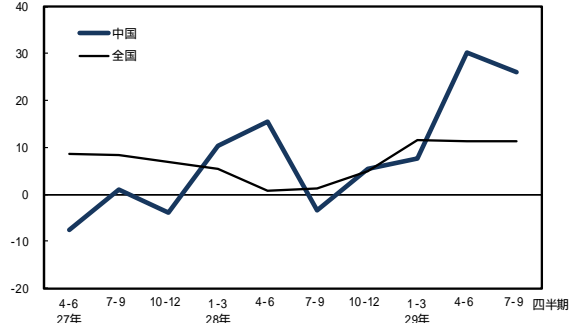
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「10月に入り建設分野以外で活動水準が向上しており、薄板のコイルセンターは忙しくなってきた。また、鋼材市況も上昇傾向にある(鉄鋼業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度計画
全産業	4.7	9.9 ( 0.5 )
製造業	14.8	20.9 ( 1.2 )
非製造業	8.0	7.6 (0.7)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.9%増、8月は同0.7%減、9月は同0.4%減となった。

百貨店・スーパー販売額

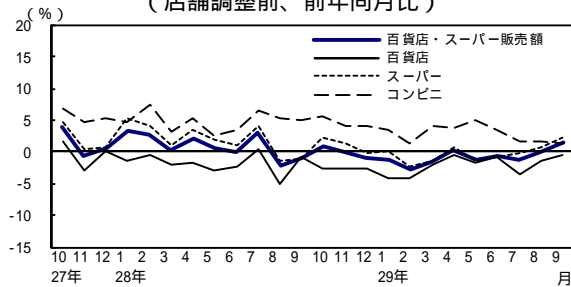
百貨店は、7月は、衣料品は苦戦が続き、飲食料品も総菜や菓子が伸び悩み、前年を下回った。8月は、衣料品の苦戦が続き、飲食料品も菓子や売場リニューアル中の総菜が伸び悩み、前年を下回った。9月は、中旬の台風による客数の減少などから飲食料品が苦戦し、衣料品も低迷が続いており、前年を下回った。

スーパーは、7 - 9月期は、家庭用品が低調であったものの、飲食料品が好調であったことなどから全体としては前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

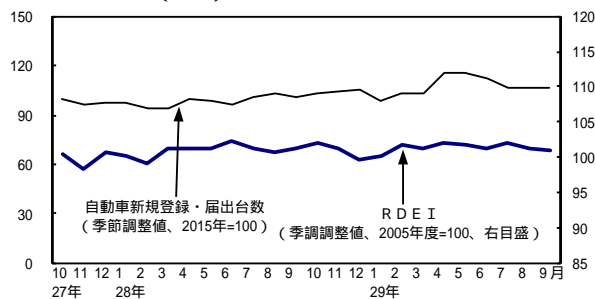
「台風などによる天候不順が続き、朝夕及び週末の郊外からの来客数が減少している。また、地元プロ野球チームの日本シリーズ進出がなくなり、前年より試合数が減少したため、市内の店舗では来客数の前年割れが起きている (コンビニ)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	29年7-9月	29年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.2	0.9	0.7	0.4
百貨店・スーパー(*2)	0.0	1.2	0.1	1.4
百貨店(*2)	1.9	3.5	1.3	0.6
スーパー(*2)	0.8	0.3	0.6	2.2
コンビニ(*2)	1.4	1.5	1.5	1.2
乗用車(*3)	4.3	5.8	3.0	3.9
(季節調整値)(*3)	6.7	4.9	0.5	0.2

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

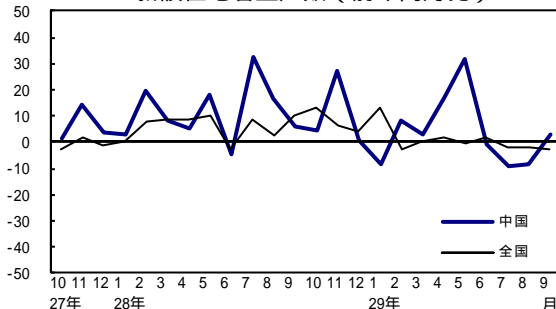
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))

(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

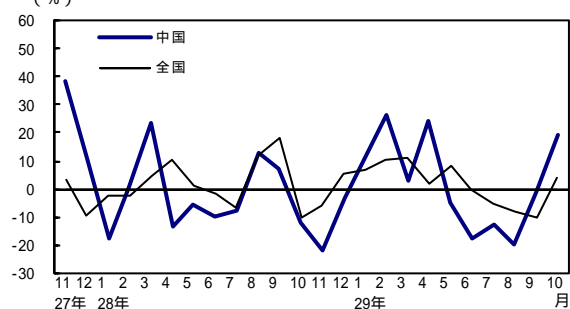
分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見るとほぼ同水準となっている。

(%) 新設住宅着工戸数 (前年同月比)



(%) 公共工事請負金額 (前年同月比)

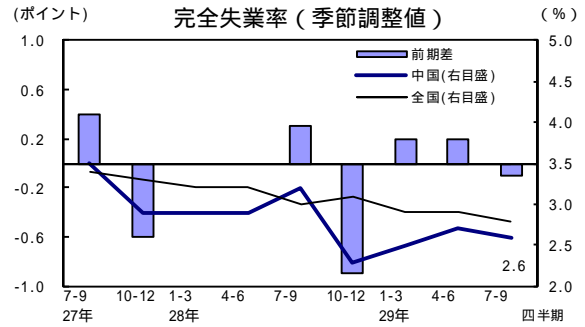
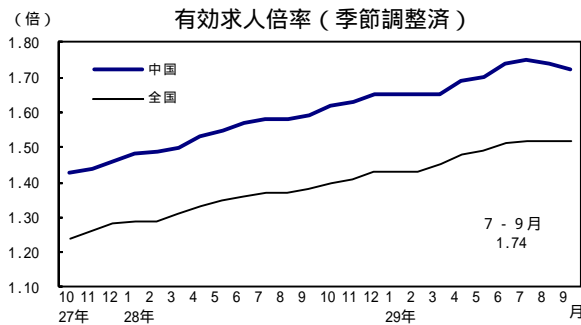


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[雇用関連 (現状)]

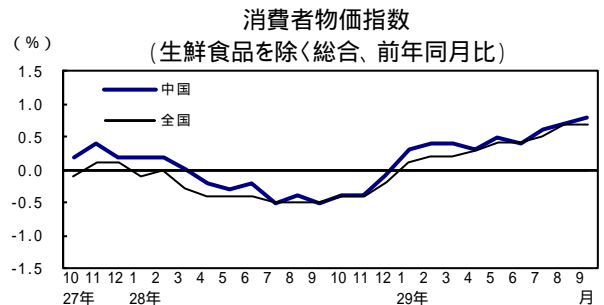
「有効求人倍率はやや低下したものの、高水準であることに変わりない。人手不足も建設業などでは一服感もあるが、医療、福祉、介護関係のメーカーや機械製造業ではまだまだ解消には程遠い状況にある。ただ個人消費は堅調に推移し、企業側も省力化や効率化が進んでいる (新聞社 [求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は大幅に減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件, 億円, %)				
	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	74	93	80	66	34
(前年比)	12.9	2.2	11.1	29.0	61.9
負債総額	575	567	85	135	149
(前年比)	338.8	267.9	41.2	10.7	302.8



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・第3週末の台風の影響で売上を大きく落としているものの、気温の低下により婦人紳士衣料が数か月前と比較すると堅調に推移しており、前年からは明らかに客の購買意欲は向上している (百貨店)

<先行き>

- ・電子部品関係の受注は引き続き旺盛ではあるが、高止まりとなる (非鉄金属製造業)

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

